

# 鈴鹿市民の コミバスをよくする会ニュース

(第29号・2019年9月発行)

発行:(略称)コミバスをよくする会  
事務局:辻井良和 方  
〒510-0234 鈴鹿市江島本町31-36  
電話 059-386-0529 FAX 059-386-0646

## 無料で実施できるように 沢山の要請署名を 市長さんに届けましょう



8月9日の市長さんとの懇談会では、私たちの会に対して、40分間ほど懇談の時間を設けて頂きました。

多くの市民が待ち望む「生活支援の交通」が、いよいよ実現できると、大きな期待を抱かせてくれました。

その事業が正しく発展するように、いま私たちも強く関心を持ち、その中身についてははっきりと意見を出し、私たちが望む「無料」のオンデマンドバス(予約制の小型バス)が出来るよう注意深く見守り、誤りの起きないように進めて行くことが必要です。

そこで、この大事な時機に、鈴鹿市民の沢山の声を集め「無料」で利用しやすい物にして欲しいと、声を届けることが大事です。

無料バスには、鈴鹿市が直営する無料バスのシステムが必要なこと。予約制の個人個人の行き先を順番に整理するのに必要なコンピューターシステムは、実績のある東京大学大学院の「コンビニクルシステム」を使うことで、時間も節約して混乱のない整理が出来ることなど、運転の成功に必要な条件を正しく選ぶ必要があります。

無料バスなら運転は普通免許で出来るので、三重交通に委託したり運転手を回してもらう必要が無く、運転経費が安く済みます。

既定のバス路線を持つ三重交通などとの関係は、「無料バス」の停留所の中に、現在の三重交通バス停や近鉄駅、伊勢鉄道の駅などを含めて、連絡をよくして使い易いものにすることです。

この様な私たちの提案を鈴鹿市長の実行方針の中に採用して貰うことが最も大事な条件です。市長の言葉からは、鈴鹿市独自の交通体系を確立しようと努力し、懇談の中でも市長自身の言葉で話されています。

市長自身が玉城町や刈谷市の無料バスを利用する経験を持っており、その成果と問題点を知っているのですから、あとは鈴鹿市議会の同意です。市議会議員の中で「無料」の方が良いのだと理解が進むように、署名を多く集めることも大事なことです。

「コミバスをよくする会」では、この8月から10月末にかけて、市民の多くから「無料のオンデマンドバス」や「無料の市内循環バス」を創って下さいと言う、市長さんへの要請署名を集めます。利用される方はもちろん、そのご家族もこの署名にご協力をお願いします。また、この署名を集めて下さる方をお願いいたしますので、署名用紙を何枚かお取り下さるようお願いいたします。

(辻井良和)



「早く無料バスが欲しい。」そんな声があちこちで起こり、鈴鹿市市政懇談会でも、各地で末松市長の耳に届き、市長も今年6月議会で調査費を付けてくれました★8月9日の「コミバスをよくする会」と末松市長との懇談会では、末松市長さんも「すべての市民に喜んでもらえる小型バスを走らせたい」と、突っ込んだ具体的な話し合いが進みました★市長さんの話の中身は、オンデマンドバスを想定した運用で、どこへでも迎えに行けるものにしたという印象でした★しかし、話しの最後に、試運転については、無料と有料をどちらもやりたい旨の発言があり、「コミバスよくする会」からは、「有料」で実験をするとは、三重交通が同意しないと、試運転自体が出来ないことになり、「無料」バスを混乱させ潰してしまう恐れがあるので、試運転は無料でやって欲しいと強く要望しました★今まで成功している玉城町、刈谷市、碧南市はすべて無料で、利用者も年々増え、住民に喜ばれ、停留所やコースの変更も、交通会社からの干渉もなく成功していること★有料で走らせたところは、最初は沢山利用されたが、年々利用が減り、乗車賃を引き上げると一層減ってしまったことなどを話しました★その理由についても「オンデマンドバス」は、生活のための利用でお金を出せば買い物減らすことになり、だんだん乗らなくなるものだからです★現在の路線バスは遠いところへ通うもので、お金が要しても仕事など行かねばならないものだからです★運転免許を返上した人のためにも、一日も早く「無料」の生活交通を保障してあげたいのです。(辻井良和)

## 8月9日の市長懇談会にて 朗報です!!



なんと、コミュニティバスを来年から、高岡・一の宮、石薬師地区など、いくつかの地域で試行運転したい、病院や駅、商業施設には必ず行けるようにしたいと、市長から発言がありました。バス停はごみ集積所を目安に設置をとの会の提案にも理解があったと感じました。

そして、経費やコース、地域間をつなぐ中央循環路線を連結してこそ、子どもから高齢者まで、生活弱者にとって生活交通が充実し、生活向上につながるよい機会となることを願っています。

具体的な内容についても、無料で利用できるものがないといけないと思います。100円でも有料となれば、運行許可など規制にしばられるため、市民の要望に応じて自由に計画、変更できるものでなければならないからです。

実証実験、試行運転を開始してもらうために、いま、署名活動を実施しています。またも7地区の自治会や世話して下さいる方々に署名をお願いしたところ、心良く引き受けて下さいました。すでに手元に届いて来ている。今一番必要とされている問題です。

誰もが市内どこへでも行ける無料バスの運行を実現できるよう、ご協力をお願いします。

(上田町・田中美代子)

## 「本気度」を感じた市長懇談 でも、無料ではまだ隔たり



さる8月9日、「コミバスをよくする会」の代表5名で、末松則子市長と懇談を行いました。石田秀三市議も同席しました。

市側からは前回に続き都市整備部長らが出席されましたが、今回新たに就任されたばかりの谷口副市長も加わり、生活交通問題への市の「本気度」を感じました。

今年1月の市長懇談では、市長から生活交通問題への前向きな見解が得られ、その後の市長選挙でも高齢社会に対応した交通政策が重点公約になっていました。今後のゆくえに多くの市民の期待と関心が高まり、そしていよいよ実証実験が計画されつつあるという重要な局面で、再度「コミバスをよくする会」としての提案をおこないました。

市長からは「病院や買い物、駅に立ち寄れる構想を描いている」「実証実験のモデルとしては高岡や一宮地域を考えている」などの答えとともに「無料でやるかどうか未定」「料金体系はもう少し考えたい」と答えがありました。

改めて生活交通問題への市長としての強い意欲を感じることができたのはよかったですと思いますが、「コミバスの会」が提起する無料化の持つ重要な意義が十分認識されていないと感じました。

無料化の提案は単に「タダの方がいい」というものでなく有料化になった場合、鈴鹿市公共交通会議という枠に縛られ、市民の要望に沿った交通政策にならない、という点をしっかりわかってもらう必要があると思いました。

残念ながら行政側には、無料化という発想は今のところ期待できそうもありません。それなら、「無料でコミバスを運行してください」という世論の力で市長の背中を押すしかないでしょう。

そのためにも「コミバスの会」として取り組む署名をいっぱい集めることだと思います。

みんなでがんばりましょう。(桜島町・谷口 茂)

**署名を持ち寄り集まろう!!**  
**目標1万筆超!!**

**コミバス署名**  
**集約集会**

**10月19日(土)午後2時開会**  
1時半開場、3時半閉会予定

**場所:ジェフリーすずかホール**

内容①この間の取り組みと、実現の展望についての報告  
②私はこんなコミバスがほしい、意見交換  
③署名活動の経験交流…など